

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第1部・第2部特別課程第41期）

福岡県 甲斐 あゆみ

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1. はじめに

私は、基本法制研修B第6期（令和3年5月11日～5月28日）と、第1部・第2部特別課程第41期（令和3年8月26日～9月22日）に参加しました。

いずれの研修も、コロナ禍、しかも感染の急拡大に伴う緊急事態宣言下という状況であったため、毎日の検温の実施、教壇の亚克力板、教室入室時のアルコール消毒、フェイスシールドの着用など、様々な感染防止対策が取られており、例年の研修と比べると異様な雰囲気の中で研修生活を送ることになりました。

2. 基本法制研修B

基本法制研修Bでは、「行政法」「地方自治制度」「地方公務員制度」「民法」「地方税財政制度」の5課目を学びます。

すべて公務員として仕事をしていくうえで必要な知識であり、知っておかなければいけない内容だというのは分かっているけど、オール座学、耳慣れない法律用語の繰り返しの繰り返し、理解がついて行かず集中力を保つのに一苦勞でした。しかし、どの授業も熱心に受講している周りの研修生のたくましい姿に、気持ちを奮い立たされ、何とか周りにはぐらかさずついていかなければと思ひ、仲間の助けも借りながらなんとか最後の効果測定までたどり着くことができました。

とはいえ、最後の効果測定では、久しく受けていない試験の独特の雰囲気に飲み込まれ、緊張しすぎて手をガタガタ震わせな

がら受験したことは今でもいい思い出です。

3. 第1部・第2部特別課程

基本法制研修Bを終了して、第1部・第2部特別課程が始まるまでは3か月ほど時間があつたので、それまでには新型コロナウイルスの感染状況も落ち着いているだろうと淡い期待を込めて過ごしていましたが、以降も感染は急拡大し、再び自治大学校に戻ってきたのはまたもや緊急事態宣言中の真夏の日でした。

第1部・第2部特別課程は、参加者が全員女性、かつ座学に演習やディベート型演習などが加わり雰囲気もがらりと変わりました。

座学では、「総合教養課目」「政策形成能力を高めるための公共政策課目」「地方公共団体を巡る最新の話題」を柱に多岐にわたる興味深い講義を受講することができ、人口減少や過疎化の問題など多かれ少なかれの自治体でも直面することになる課題を学び、自治体行政の在り方やとるべき政策について考えたり、自分自身について見つめ直したり、今後自分が業務で取り組みたい課題や働き方の方向性についても考えるきっかけになりました。

事例演習では、「メンタルヘルス不調職員に係る法制度」「企業の地方拠点強化等を核としたまちづくり」をテーマにグループ演習と班別演習を行いました。

事前課題が与えられていたため、事前に県の担当部署に制度の内容を聞き取り、大量の資料を持ち込んで演習に臨みました。

「メンタルヘルス不調職員に係る法制度」

についての取組は、おおむねどの自治体も同じような取組をしており、共通課題も見つけやすかったのですが、「企業の地方拠点強化等を核としたまちづくり」では、自治体ごとに取り組み方や取り組み姿勢、実績等も全く異なるため、グループ演習や班別演習においてグループのメンバーと議論すればするほど、違う角度でのものの見方に触れることができ、新しい発見や自分の掘り下げ方の甘さに気づくことができました。

ディベート型演習では、ディベート自体がそんなに経験がないこともあり、ルールに基づいて立論と主張をするやり方を学び、多くの時間を使って自分たちの主張が有効だと理解させるにはどうすればいいか、相手の主張はどこが弱いかなどをじっくり考える貴重な経験になりました。

特定政策課題レポートについては、事前課題が渡された時点で、第1部・第2部特別課程の最難関課題であると覚悟していたため、研修期間中最も多く時間を取って取り組みました。自分自身で資料を調べるのはもちろん、他の研修生と意見を交わしたり、日常の何気ない会話からヒントをもらったりして、レポートを作り上げていきました。時には考えがまとまらず深夜までレポートを作成、再考することもありましたが、何とか提出することができ、終わった時には研修生同士でレポート終了の喜びを分かち合いました。

研修生活について

前述したとおり、私が参加した研修期間はずっと緊急事態宣言下だったため、自治体大学の近くの飲食店等は軒並み休業や時短営業をしており、必然的に寮で過ごすことが多くなりました。

今回参加した基本法制研修B、第1部・第2部特別課程では、いずれも素晴らしい仲間恵まれていました。

グループ演習や班別演習の研修生はもちろん、特に同じフロアの研修生とは多くの時間を一緒に過ごしました。食事の時間だけでなく、自然と談話室に集まることが多くなり、効果測定やレポート、演習課題についての話をしたり、一緒にDVDを観たり、各研修生の地元の差し入れが届いた時などは大いに盛り上がっていました。

コロナ禍以前の時のように多人数での飲み会などはできなかった分、談話室を居間代わりに家族のようにアットホームな雰囲気でき快適に過ごすことができました。



研修生に届く数々の差し入れ

終わりに

今回の研修では、多くの学びと多くの仲間を得ることができました。社会人になってこれほど長い時間を勉強だけに費やすことができ、素晴らしい講師陣と仲間巡りに出会ったことは、とても貴重な経験でした。

自治大学校の皆さんのサポートのおかげで私の参加した2つの研修期間においては、1人も欠けることなく一緒に終了、卒業できました。

このコロナ禍で、研修を中止することなく、安全に研修を開催し運営してくれた自治大学校の関係者の皆さんや講師の方々、そして私を送り出してくれた派遣元に改めて感謝いたします。

自治大学校で得た学びや数々の出会いを今後は地元に戻元していかなければと思っています。



1日だけ見えた富士山（部屋より）